

第1学年 数学科学習指導案

1 単元名 「資料の活用」（啓林館 1年）

2 本時の展開

(1) 目標 数学的な表現を用いてどちらの選手を選ぶのかを説明することができる。

(2) 展開 ◆：授業における UD

過程	時間	学習活動	形態	生徒の予想される反応○●と指導上の留意点・	準備物
つかむ	5分	1 前回までの学習内容の復習をする。 2 学習課題を把握する。	一斉 一斉	・前回までの学習では何を学んでいますか。 ○資料を表やヒストグラムに表したり、代表値や範囲などを考えたりしました。 ◆生徒から出てくることが予想されるキーワード をカードにし、黒板に残す。	実物投影機 カード
		代表値や範囲を用いて、代表選手をA選手にするかB選手にするか決めよう。			
さぐる	10分	3 自分なら、どちらの選手を代表にするか考える。 (1) 代表値や範囲などの数学的な表現を用いて理由を考える。 (2)まとめたものを発表しあう。	一斉 個 ペア	○これまでに学習した代表値や範囲などを考えて比較すればよい。 ●代表値や範囲の用い方が定着しておらず、スマーズにとりかかることができない。 ・机間指導を行い、とりかかっていない生徒には、適宜助言をする。代表値を求めることが難しそうな生徒には、ヒントとしてカードの裏を見るように促す。	ワークシート
つかめる	20分	4 様々な条件から、選ぶ代表選手についてもう一度考える。 (1) 自分考えをまとめ (2) 班で共通の選手を選ばせる。 【言語活動】互いの意見を伝え合い、自らの考え方や友だちの考えを発展させるために、数学的な表現を正しく用いて、理由を説明しあう。 (3) 全体に発表する。	個 班 一斉	【条件1】大会では3回跳躍することができる。 【条件2】8人以上の参加者がいる。(8人以上の参加で予選が行われる。予選の3回で8位以内に入ると決勝で更に3回の跳躍ができる。6回のベストを記録とする。) ・自分が選んだ代表選手とその理由について、班で発表しあい、班で共通の選手を選ばせる。その際、質問をするなど批判的に考察し判断をするように促す。 能動 ○条件を検討し、代表値や範囲などを理由として代表選手を選ぶことができる。 ●代表値や範囲などの数学的な表現を用いた理由ではなく、生徒自身の主観が入った代表選手の選択になっている。 ・主観が入っている場合は、根拠が有無を評価の材料とする。 【評価】条件を検討し、根拠(代表値や範囲など)を明らかにして代表選手を選ぶことができる。(ワークシート・観察)	実物投影機 適用問題
	5分	5 適用問題を解く。	個	・適用問題を解くことができない生徒へは、ヒントカードを活用し、適宜助言をする。	
まとめる	10分	5 本時のまとめをする。 6 授業の振り返りを行う。	一斉 個	【まとめ】実生活の場面において、代表値や範囲を判断の材料として、様々なことを考えることができる。 ・本時の振り返りをさせ、数名発表させる。	